

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	狩俣 繁久		国際沖縄研究所	職 名	教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウェイト 比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	(1)前期は共通教育1コマ、学部4コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当する。 (2)後期は学部4コマ、大学院5コマ、合計9コマの講義を担当する。 (3)上記科目へ留学生、社会人を受け入れる。 (4)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施し、学生の実践的な調査研究能力を高める。	0.30	(1)前期は共通教育1コマ、学部4コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当した。 (2)後期は共通教育1コマ、学部4コマ、大学院5コマ、合計10コマの講義を担当した。 (3)共通教育科目琉球語入門に2名の社会人を受け入れた。 (4)琉球語学概論を宮古島、石垣島、久米島のサテライト教室に配信した。 (4)学部の科目に実習科目(野外調査)を実施した。	
研究	0.35	(1)科研費基盤(S)「分岐系統樹を用いた琉球諸語の比較言語学的研究」の研究代表者として研究を申請する。 (2)科研費基盤(B)「八丈語の保存・継承の研究のための総合研究」(代表者:金田章宏千葉大学教授)の分担者として研究を遂行する。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「琉球列島における消滅に瀕した民俗文化レッドデータリスト作成のための基礎的研究」を申請する。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における“動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進する。 (5)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へ自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットに参加して研究を推進する。 (6)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し研究を行なう。 (7)国際日本文化研究所の共同研究員として研究課題「日本語の起源はどのように論じられてきたか」の研究を遂行する。 (8)国立国語研究所の客員教員として「とりたて表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行する。 (9)国立国語研究所の客員教員として「名詞修飾表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行する。 (10)国際沖縄研究所IJOSIに論文を投稿する。 (11)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』41号に論文を投稿する。 (12)琉球大学琉球アジア社会文化研究会誌『琉球アジア社会文化』に投稿する。 (13)『琉球アジア文化論集』3号に論文を投稿する。 (14)沖縄言語研究センターの公開研究会で研究発表する。 (15)国立国語研究所 共同研究プロジェクト研究発表会研究発表する。	0.25	(1)科研費基盤(S)「分岐系統樹を用いた琉球諸語の比較言語学的研究」の研究代表者として昨年度申請したものが不採択になったので、10月末に29年度採択に向けて再度申請した。 (2)科研費基盤(B)「八丈語の保存・継承の研究のための総合研究」(代表者:金田章宏千葉大学教授)の分担者として2度現地調査を実施し語彙調査を行った。 (3)学内中期計画達成プロジェクト経費「琉球列島における消滅に瀕した民俗文化レッドデータリスト作成のための基礎的研究」は不採択になった。 (4)学長リーダーシップ研究プロジェクトの一つのプロジェクトとして「琉球諸語における“動的”言語系統樹システムの構築」の研究を推進し、3月11日に沖縄県立博物館・美術館で研究シンポジウム「言語と文化と遺伝子からみた琉球列島への人の移動」を開催し、パネリストとして研究報告した。 (5)国際沖縄研究所「グローバル社会の周縁から中心へ自律的島嶼社会モデルの構築」の多様性ユニットに参加して研究を推進した。 (6)文化庁委託「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」に分担者として参加し研究を行なった。 (7)国際日本文化研究所の共同研究員として研究課題「日本語の起源はどのように論じられてきたか」の研究を遂行し、研究発表を行なった。成果は論文集として、2019年度に出版社から出版される予定である。 (8)国立国語研究所の客員教員として「とりたて表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行した。成果は2019年度に出版社から論文集として、出版される予定である。 (9)国立国語研究所の客員教員として「名詞修飾表現の対照研究」プロジェクトの研究を遂行した。 (10)法政大学沖縄文化研究所紀要『琉球の方言』41号に論文を投稿し掲載された。 (11)沖縄言語研究センターの公開研究会で研究発表した。 (12)国立国語研究所 共同研究プロジェクト研究発表会研究発表した。 (13)国立遺伝学研究所で開催された国際シンポジウムHuman evolution in Eurasia through Genetics, Archeologyで“The linguistic difference between Northern and Southern Ryukyuan from the perspective of human movement”の研究発表を行なった。 (14)『琉球アジア文化論集』3号に論文を投稿し掲載された。	
社会 貢献	0.05	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務める。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務める。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務める。 (5)日本語文法学会(全国組織)の編集委員を務める。 (6)沖縄言語研究センター研究運営委員を務める。 (7)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務める。 (8)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わる。 (9)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行い、辞典を編集する。 (10)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(与論島大会)」のシンポジウムに参加する。	0.05	(1)国立国語研究所の全国方言調査委員を務めた。 (2)国立国語研究所の危機方言研究委員を務めた。 (3)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (4)日本語学会(全国組織)運営委員を務めた。 (5)日本語文法学会(全国組織)の編集委員を務めた。 (6)沖縄言語研究センター研究運営委員を務めた。 (7)恩納村教育委員会編『恩納村の方言』の編集委員長を務めた。 (8)県立博物館美術館のシマクトゥバプロジェクトの企画運営に携わった。 (9)名護市幸喜方言辞典作成のための臨地調査を行なった。 (10)文化庁、沖縄県、琉球大学共催の「危機的な状況にある言語・方言サミット(与論島大会)」のシンポジウムに参加した。	
管理 運営	0.30	(1)グローバル教育支援機構副機構長を務める。 (2)学士教育プログラム委員会の委員長を務める。 (3)国際沖縄研究所副所長を務める。 (4)日本語教育副専攻の主任を務める。	0.40	(1)グローバル教育支援機構副機構長を務めた。 (2)学士教育プログラム委員会の委員長を務めた。 (3)国際沖縄研究所副所長を務めた。 (4)日本語教育副専攻の主任を務めた。 (5)全学教員人事委員会の委員を務めた。 (6)全学入試委員会委員を務めた。 (7)グローバル教育新機構の委員を務めた。 (8)大学院プログラム委員会の委員を務めた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 学外公表に同意しない。 学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藤田 陽子	所 属		国際沖縄研究所
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	①次の科目についてシラバスに従って授業を実施し、終了時には授業評価アンケート(対象科目のみ)を実施する。 学部：環境経済学(昼間主・夜間主)、総合環境学概論(オムニバス、1コマ分)、キャリアデザインとジェンダー(オムニバス、1コマ分) 博士前期課程(経済システム領域)：環境経済学特論・環境経済学演習・総合社会システム特別演習(政策評価実践コース、チームティーチング)博士前期課程(島嶼研究領域)：島嶼経済特論・島嶼経済演習 博士後期課程：比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ(チームティーチング)、島嶼環境経済特論、島嶼環境経済演習 ②学生・院生から進路や就学に関する相談を受けた場合は適切に対応する。		0.25	①下記担当科目の講義をシラバスにしたがって実施し、授業評価アンケート(対象科目：環境経済学のみ)を実施した。 【学部】環境経済学(昼間主・夜間主)、総合環境学概論(オムニバス、1コマ分)、キャリアデザインとジェンダー(オムニバス、1コマ分) 【博士前期課程(経済システム領域)】環境経済学特論、環境経済学演習、総合社会システム特別演習(政策評価実践コース、チームティーチング) 【博士前期課程(島嶼研究領域)】島嶼経済特論、島嶼経済演習 【博士後期課程】比較地域文化総合演習Ⅰ・Ⅱ(チームティーチング)、島嶼環境経済特論、島嶼環境経済演習 ②講義受講生からの進路・就学に対する相談に随時対応した。
研究	0.30	①文部科学省特別経費事業「自律型島嶼社会の創生に向けた「島嶼地域科学」の体系化」のプロジェクトリーダーを務める。 ②地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)の「サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対応」のPIとしてパラオ共和国における調査研究を遂行する。 ③平成29年度に向けて科研費の申請を行う。		0.30	①文部科学省特別経費事業「自律型島嶼社会の創生に向けた「島嶼地域科学」の体系化」のプロジェクトリーダーを務めた。 ②地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)の「サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対応」のPIとしてパラオ共和国における調査研究をほぼ計画通り遂行した。 ③科研費の申請は行わなかった。 ④文部科学省特別経費事業「新しい島嶼学の創造」による英文書籍 <i>Self-determinable Development of Small Islands</i> を編集・出版した。
社会貢献	0.05	①各種審議会・委員会等の委員就任依頼等に対し、専門家としての知識を社会に還元する必要がある場合は可能な限り応じる。(H28年度：沖縄県環境審議会(副会長)、沖縄県景観形成審議会、沖縄地方労働審議会、沖縄県沖縄型海岸整備のあり方検討に係る委員会、米軍施設環境対策事業検討委員会(副会長)、他2件、計7件)		0.05	①沖縄県環境審議会(副会長)、沖縄県景観形成審議会、沖縄地方労働審議会、沖縄県沖縄型海岸整備のあり方検討に係る委員会、米軍施設環境対策事業検討委員会(副会長)、他2件(計7件)の委員等に就任した。 ②学部科目「環境経済学」(昼間主・夜間主)を一般公開し、5名の受講生を受け入れた。
管理運営	0.50	①国際沖縄研究所長として、同所の運営管理を行う。 ②国際沖縄研究所の全国共同利用・共同研究拠点化に向けた事業を推進する。 ③研究推進会議、管理運営に関する自己点検・評価委員会、(計2件)の委員としての任務を滞りなく果たす。 ④法文学部教授会・人文社会科学研究所委員会構成員としての役割を果たす。 ⑤島嶼研究者ネットワーク会議に参加する。		0.50	①国際沖縄研究所長としての研究所運営の任務を遂行した。 ②全国共同利用・共同研究拠点申請に向けた事業の推進・統括を担った。 ③学内委員会等委員(研究推進会議、琉球大学管理運営に関する自己点検・評価委員会、全学情報システム運用委員会、全学情報システム技術専門委員会)を務めた。 ④法文学部教授会・人文社会科学研究所委員会構成員として会議に出席し、研究科では教務担当を務めた。 ⑤所長として、環境省による島嶼研究者ネットワーク会議(ESNAP)の企画・開催に関与した。 ⑥2016年11月にマルタ大学で開催されたRETI(島嶼大学ネットワーク)カンファレンスに参加し、2017年11月本学開催の年次会合について協議を行った。
	0.00			0.00	
計	1.10	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.10	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	